

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立北野中学校

平成27年4月21日に、本校3年生を対象とした「全国学力調査」が行われましたが、その結果がまとまりましたので連絡させていただきます。本調査は、国語、数学、理科、生徒質問用紙からなり、学力だけでなく生活習慣との関係なども調査されました。

【総合結果 国語・数学・理科】

平成27年度全国学力・学習状況調査結果（中学校調査）

【教科に関する調査の結果（平均正答率）】

	国語A(知識)	国語B(活用)	数学A(知識)	数学B(活用)	理 科
全国	75, 8	65, 8	64, 4	41, 6	53, 0
京都府	76, 7	66, 5	65, 3	42, 5	52, 6
京都市	77, 0	66, 7	65, 3	42, 9	53, 2

上記にありますのは、平成27年度の全国学力調査における全国・京都府・京都市の平均正答率を表しています。京都市は、各教科とも全国平均正答率を若干上回っていることがわかります。本校の結果は、数学B（活用）においてわずかに全国を下回る結果となりましたが、それ以外では全国平均正答率を上回る結果を残せております。

各教科別に詳しく分析した結果を以下に紹介させていただきます。お子様のアドバイスにもぜひご活用ください。

【国語】

国語Aにおいて「話す聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識理解技能」の領域別正答率は全て京都府平均・全国平均を上回った。特に「書く能力」については全国を4, 6ポイント上回り、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く、文章構成を考えて書くといった力が身についているように思われる。

しかし、「言語についての知識理解技能」が全国平均より4, 1ポイント上回っているとはいえ、『縮尺』の書き取り、『詳細』の読み取りは70パーセントを切るという正答率にとどまっている。まだまだ、漢字を正確に書く、読む力は十分とは言えない。

国語Bにおいても「話す聞く能力」「書く能力」「読む能力」の領域別正答率が全て京都府平均・全国平均を上回った。しかし難易度が高く、全国的にも課題視されている「複数の資料から適切な情報を得て、自分の意見を書く」という趣旨の問題に関しては日常の授業の中、あるいは家庭学習において、下記のような点を考慮に入れながら取り組んでいく必要があると思われる。

【課題克服の取組】

- ① 小学校で学ぶ漢字を含む、常用漢字の反復（言語の知識）
- ② 国語科だけでなく、他教科においても感想文やレポートなどの活動に取り組むこと（書く）
- ③ 文章の中の、要点にあたる部分を抜き出したり、まとめたりすること（要約）
- ④ 自分の意見や思いを話す・書く課題のなかで適切な言葉が使えるよう語彙を増やすこと（言語の知識）
- ⑤ 多くの文章に触れ、感想を人に伝えたり内容を要約したり知らなかった言葉に興味を持つこと（読む）
- ⑥ 自分の考えを述べる際、相手により伝わる語彙を選択し、構成を考えること（話す）

【数学】

数学Aについて、「数学的な技能」の領域別正答率は京都府を上回っている。特に、「数と式」に関しては、全国平均を2，4ポイント上回っており計算の基礎基本がしっかりと定着しているように思われる。また、以前からの課題であった「資料の活用」に関しても京都府・全国平均ともに正答率が上回っている。このことから、現在学習している単元に加えて、日頃から定期的に宿題として復習していくことが必要であると考えられる。

数学Bについては、「数学的な見方や考え方」の領域別正答率は全国平均を下回っている。詳しくみると、「図形」の領域の正答率が全国平均よりも特に低く、苦手意識を感じていると思われる。そして、説明（証明）する問題の無回答率は全体的に低いが、根拠が不十分のため完全な正解につながっていないことがわかる。日頃の授業より、積極的に説明させる活動を取り入れていかなければならないと考えられる。

【課題克服の取組】

- ① 徹底した基礎基本の定着（計算）
- ② 数学用語を正確に理解し適切に使うことができる（言語活動）
- ③ 関数や確率などの定義を理解する
- ④ 問題文を整理し、筋道を立てて答えを導き出す
- ⑤ 発展的な問題を演習する

【理科】

全体は京都府、全国平均とほぼ同じ結果となっていた。主として「知識」に関する問題が全国平均より2，4ポイント下回った。観点別に見ても、自然事象についての知識・理解は京都府より1，2ポイント、全国より4，2ポイント下回っていた。基本的な知識の定着ができていない。また領域別に見ていくと、化学的領域が京都府より2，2ポイント、全国より3，5ポイント下回っており、特に化学式や物質の性質などが苦手な傾向にあるといえる。

その他特徴的なものでは、領域別で物理的領域が京都府より1，7ポイント、全国より2，3ポイント上回っている。観点別にみると、観察・実験の技能が京都府より3，3ポイント、全国より2，3ポイント上回っている。問題形式別では、記述式の問題が全国より3，2ポイント、京都府より3，8ポイント上回っている。

また、主に「活用」に関する問題や科学的な思考・表現の問題は、京都府や全国の平均正答率を上回っているが、正答率50パーセントを下回っている。思考・表現の能力を伸ばす手立てをするために、日常の授業の中、あるいは家庭学習において、下記のような点を考慮しながら取り組んでいく必要がある。

ると考えられる。

【課題克服の取組】

- ① 追求する課題・学習の場面を増やしていく（思考・表現）
- ② 徹底した基礎基本の定着（知識・理解）
- ③ 化学領域の特に重点的な手立て

【生徒質問紙調査より】

「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」「自分には、よいところがあると思いますか」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」という質問結果から、京都府・全国と比べて、まだまだ自分に自信を持ち切れない生徒が多く、自分の良いところを認識できていたり、自分の意見を人前で発表したりすることを得意だと言えない傾向が強く出ていることがわかった。ところが、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」「総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問結果からは、全国的に見ても高い数値を示しており、総合学習における協力や、学校祭などにおける学習場面が、いかにこの学年の生徒たちにとってよい効果をもたらしているかが明らかになっている。そのことから、自分自身にはまだ自信が持てないが、みんなで何かを成功させた経験が生きている生徒が多いことがうかがわれる。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の宿題をしていますか」の質問結果からは、宿題はしているが、自ら学習の計画を立てて勉強したり、復習したりすることが身につけていない生徒が多いことがわかった。「学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか」の質問結果からは、学校の授業でわからないところを、学習塾に頼っている傾向が見られた。

【全体を通した本校の成果と課題】

本校では、小学校と合同研修会を行うなど、地域の子どもを9年間の見通しを持った教育活動をすすめて、学習確認プログラムやジョイントプログラムなどの学力情報を共有したり、日々の指導法の改善を図ったりしてきました。その結果、各教科とも全体としては概ね良好な結果が得られています。また、仲間と共に何かを成し遂げるといった内容については、全国的に見てもかなり高い充実感・達成感を感じていることもわかりました。

しかしながら、各教科の応用、生徒質問用紙による質問結果にも表れていたように、自分の言葉で自信を持って意見を述べることができる力など、自己表現力に弱さが見られました。普段の授業や家庭学習などに計画的かつ自主的に行動したり、自己決定して行動する場面が普段から少なかったりすることが原因のひとつではないかと考えられます。

これから、3年生は自分の進路に向けて力強く自己決定していく時期に入ります。普段の生活を今一度見直し、授業や家庭学習を大切にし、さまざまな意見を参考にしながら、しっかり自分の生き方を考えて行動していくことができれば、みんなで頑張ってきたこの学年のよさに後押しされ、たくましく進路を決定していけるのではないかと思います。

ご家庭でもこのような事に触れた会話をしていただけたらありがたく思います。